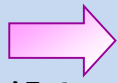


＜観光振興の意義＞

国の光・地域の光

〔固有の文化、自然
産物、暮らし等〕

観る



観せる

- ・観光客に楽しみ、学び、気づき、癒しなどを提供
- ・交流人口の拡大、経済・地域の活性化に貢献
- ・世界中の人々の相互理解を促進、世界平和の実現に寄与

＜京都観光が対応すべき課題＞

【これまでの課題】

- ・少子高齢化、人口減、国内旅行者の減
- ・低経済成長、厳しい伝統産業や商店街等
- ・観光課題（一部の混雑、マナー違反等）の発生
- ・観光産業における担い手不足
- ・文化・地域コミュニティの継承・発展
- ・地球温暖化への対応・環境の保全 など

【コロナを踏まえた新たな課題】

- ・観光客の激減、観光関連産業への甚大な影響
- ・IT利用促進等によるサービスの質の向上と効率化
- ・リモート会議等が普及する一方で、直接的な交流の重要性の認識
- ・感染症対策と観光との両立
- ・危機に強いレジリエントな観光の実現 など

＜京都が目指すべきまちづくりと観光＞

様々な危機に対応し、地域や社会の課題解決に貢献していく持続可能な観光

＜京都観光の2030年に実現すべき姿＞

- 1 市民生活と観光の調和が図られ、市民が豊かさを実感できる。
- 2 あらゆる主体が京都の「光」（固有の文化、自然、産物、暮らし等）を磨き上げ、観光の質（観光スタイルの質、観光都市の質）を高める。
- 3 MICE都市としての魅力が確立し、世界の人々が集うまちになる。
- 4 観光の担い手が活躍し、都市の発展や文化の継承に寄与できる。
- 5 災害や疫病などの様々な危機に対応できる、しなやかで力強く、安心・安全で持続可能（レジリエント）な観光を実現（観光と危機管理の両立）させる。

京都観光の推進⇒SDGsの達成に貢献



＜実現に向けて求められる観点＞（横断的な観点）

- 1 コロナウイルス感染症による影響からの力強い回復（計画前半期の最重点課題）
- 2 文化の継承と環境への配慮を重要視した観光の推進
- 3 最先端ICTの活用とイノベーションの推進
- 4 エリアごとの観光を推進する仕組みの強化
- 5 市民・観光客・事業者と市・DMOとのコミュニケーションの強化
- 6 DMOを核としたオール京都での協働、広域連携強化

＜国連観光文化京都会議2019＞ 観光・文化京都宣言

- 観光と文化の「京都モデル」の推進
「観光」が「文化」と「地域コミュニティ」の継承・発展に向けて、三者の間に好循環を生み出すプロモーターの役割を担う京都モデルの推進
- 観光部門の倫理意識の強化
UNWTO世界観光倫理憲章の実行や行動規範の採用等による観光部門の倫理意識の強化

＜行動基準の構築・実践＞

- ・観光事業者や観光客が、京都の歴史や文化、生活・習慣等について尊重し、遵守いただけるような理想的な行動基準を新たに構築・実践